

【クラブ活動報告】

田辺市の天神崎で植樹

河内長野東ロータリークラブ

今年度の大きな社会奉仕事業の第2段として、中村会長の念願である植樹を実現しました。場所は河内長野より遠く離れていますが、ナショナルトラスト運動の発祥の地である田辺市の天神崎です。

ここには「天神崎の自然を大切にする会」が活躍されていて、今年は設立50年目にあたるそうです。この自然を守り育てるための植樹活動に、田辺ロータリークラブも加わっていただきました。



3月24日(日)貸し切りバスにて出発し、到着後の河内長野東RC、田辺RC合同植樹会のセレモニーでは、谷 宗光ガバナー、岡本 博ガバナー補佐、そして「大切にする会」の皆様の参加で総勢60人にもなりました。

この日はあいにくの雨でしたが、セレモニー時には小雨になり、植樹の時は幸運にも雨が止みました。河内長野東RCとして木は潮風にも強いシャリンバ、タブノキなど3種、計400本用意し、足元のぬかるみもあり、慣れない作業でしたが100本位植えました。河内長野東RCに造園業の会員がいて、準備や進行でスムーズにすすみました。残りはその会員と「大切にする会」に託しました。植樹の後、再度雨になり予定していた磯の観察会を中止し、観光の後帰路につきました。

この事業は、会長及び担当委員会の努力で実現し、遠くはなれたクラブ同士での合同作業はたいへん意義がありました。

なお、河内長野東RCからは大人20人、子ども6人。田辺RCは大人25人も参加いただきました。この催しには「TV和歌山」と「紀伊民報」の取材があり、それぞれ広報していただきました。

ロータリーの重点分野



環境

